

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 60人 |
| ② 算数 | 60人 |
| ③ 理科 | 60人 |

5 留意事項

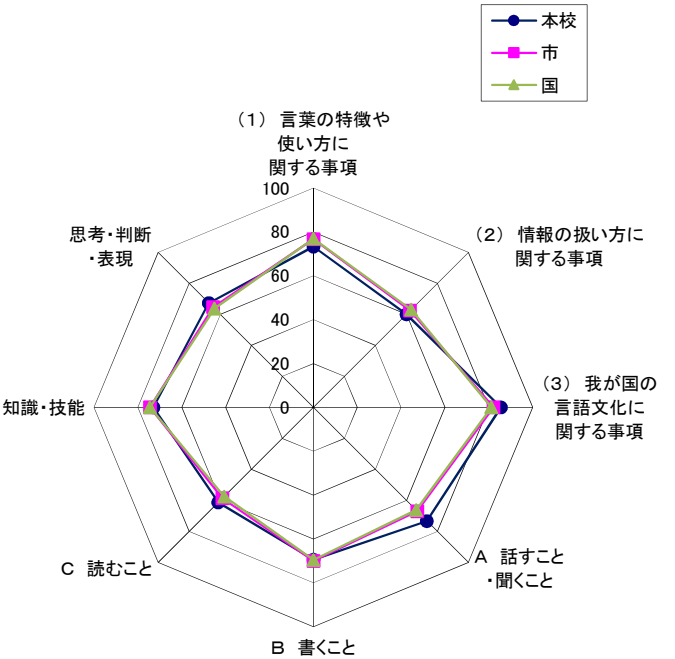
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.3	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	60.0	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	73.3	67.0	66.3
	B 書くこと	69.4	70.0	69.5
	C 読むこと	61.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	72.9	74.5	74.5
	思考・判断・表現	67.3	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

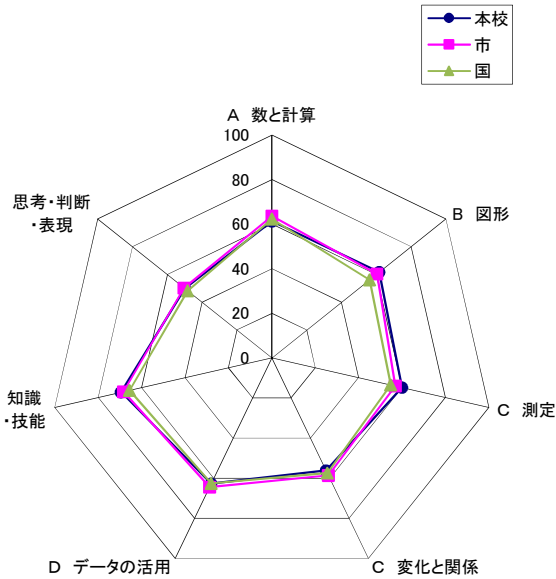
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、2問中の1問では正答率が90.0%であり、全国の平均より8.4ポイント高い。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題のもう1問では、正答率が56.7%であり、全国の平均より15.4ポイント低い。	・漢字50題テストやドリル付帯のテスト等の機会を生かし、目標をもって漢字学習に取り組むよう促し、偏りなく定着を図る。 ・ノートの記入や作文の指導の際に、既習の漢字を使うよう指導する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる問題では、正答率が60.0%であり、全国の平均より3.1ポイント低い。	・他の教科においても目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりする活動を取り入れ、考えを明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに関する問題では、正答率が85.0%であり、全国の平均より3.8ポイント高い。	・意味調べや言葉を扱う小単元の学習、児童との日常的な会話等、様々な場面を捉え、言葉の由来や変遷、変化について話をしたり考えさせたりすることで、引き続き、言語感覚を養っていく。
A 話すこと・聞くこと	○話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題では、正答率が83.3%であり、全国の平均より9.6ポイント高い。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝える内容を検討する問題では、正答率が60.0%であり、全国の平均より6.7ポイント高い。	・引き続き、毎朝のスピーチの時間を活用し、話の内容の構成を事前に考えさせることで、いつ、どこで、だれが、何を、どうした、等の文章の基本構造を使いこなせるようにする。 ・グループ活動等で、友達の意見を聞く場を設定し、自分の考えとの違いを意識させる活動を継続して行う。
B 書くこと	○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える問題では、正答率が68.3%であり、全国の平均より3.8ポイント高い。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、正答率が56.7%であり、全国の平均より4.6ポイント低い。	・作文指導の機会を生かし、自分の考えを正しく伝えられるよう、整った文型で書くことを指導する。また、題材を身近なものにするなどの工夫をし、書くことそのものへの苦手意識を軽減させる。 ・伝える場面や相手を意識させることで、最も伝えたいことを整理しやすくし、構成を考えた文章作りを授業や宿題に取り入れる。
C 読むこと	○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える問題では、正答率が88.3%であり、全国の平均より6.7ポイント高い。	・内容を正確に読み取れるようにするため、文中の大切な事柄に線を引かせたり、文のつながりを考えさせたりしながら読むことを継続して指導していく。 ・場面ごとの要約を書く活動や作文指導の際に、出来事を端的にまとめることを意識させた指導を継続して行う。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.3	63.6	62.3
	B 図形	61.7	60.4	56.2
	C 測定	60.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	56.1	58.6	57.5
	D データの活用	62.7	64.4	62.6
観点	知識・技能	69.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	50.0	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

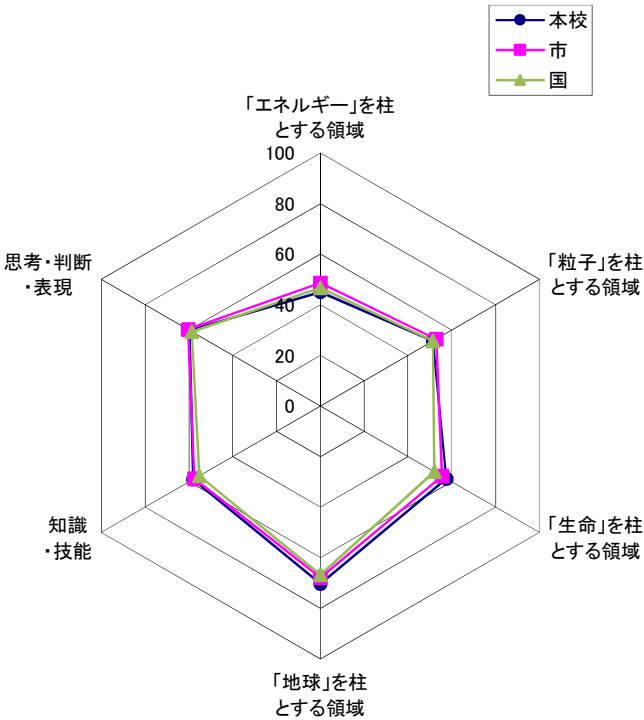
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかみる問題では、正答率が80.0%であり、全国の平均より5.5ポイント高い。 ●小数の加法について数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が68.3%であり、全国の平均より5.8ポイント低い。	○引き続き、文章問題の内容を的確に捉え、正確に計算するための処理の仕方を話し合う場の設定や個別指導の充実を図っていく。 ●基本的な計算技能の習熟を図るとともに、小数の加法や減法については、問題場面の数量関係を具体物や数直線を用いて視覚化したり、位取りの言葉を明確化し日常生活と関連を図ったりするなど、指導の工夫をしていく。
B 図形	○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が58.3%であり、全国の平均より8.3ポイント高い。 ○角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、正答率が86.7%であり、全国の平均より7.4ポイント高い。	●図形の性質をより深く理解できるよう、具体物を取り入れ性質の確認をするなど算数的活動を多く取り入れたりと、ICTを効果的に活用したりした授業を工夫する。 ●引き続き、図形の性質を理解した上で、筋道を立てて考える活動を多く取り入れる。
C 測定	○はかりの目盛りを読む問題では、正答率が75.0%であり、全国の平均より14.1ポイント高い。 ●伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題では、正答率が45.0%であり、全国の平均に比べて3.7ポイント低い。	●筋道を立てて考え、知りたい数量の求め方を説明できるような活動を多く取り入れる。 ●伴って変わる2つの数量の関係について、数量だけでなく、重さからも答えを求めることができるなど、必要な事柄を判断して求める問題解決の活動を取り入れる。
C 変化と関係	○「10%増量」の意味を理解し、増量前と後で何倍になっているかを答える問題では、正答率が45%であり、全国の平均より4.1ポイント高い。 ●伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題では、正答率が78.3%であり、全国の平均に比べて4.5ポイント低い。	●多様な場面の問題を解くことによって、問題を解くために必要な事柄が何かを考えることができるようにする。 ●伴って変わる2つの数量の関係を理解した上で、知りたい数量を求めることができるような算数的活動を多く取り入れる。
D データの活用	○表から、条件に合った項目を選ぶ問題では、正答率が80.0%であり、全国の平均より8.4ポイント高い。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題では、正答率が71.7%であり、全国の平均より7ポイント低い。	●他教科でグラフを扱う場合に、グラフから読み取ったことをもとにデータの特徴をまとめたり話し合ったりさせることで、活用方法の幅を広げられるようにする。 ●一人一台端末を活用し、データを整理し、グラフに表すことのよさを実感させるとともに、日常的にデータを活用する機会を設ける。

宇都宮市立清原中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.0	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	51.4	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	57.5	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	70.3	67.9	66.7
観点	知識・技能	58.1	57.5	55.3
	思考・判断・表現	59.8	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ問題では、正答率が48.3%であり、全国の平均より5.4ポイント高い。 ●乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題では、正答率が51.7%であり、全国の平均より3.4ポイント低い。	・乾電池のつなぎ方と電流の大きさを関連付けて考え、回路と電流の大きさの理解を図れるようにする。 ・実験や観察を通して得られた結果をまとめるだけでなく、理由も考えさせ、自分の言葉や図等でまとめる学習を今後も継続していく。 ・授業内で課題を作ったり、予想をして実験方法を考えたり結果をまとめ考察したりする際に、キーワードを示すなど必要な言葉を意識させる。
「粒子」を柱とする領域	○水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、正答率が75.0%であり、全国の平均より10.8ポイント高い。 ●海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ問題では、正答率が63.3%であり、全国の平均より2.3ポイント低い。	・ICT機器を活用して既習の内容や生活経験を提示するとともに、自然現象を観察するときや日常生活の中で、学習内容を積極的に活用できるようにする。 ・実験の際に見通しをもって実験に取り組んだり、学習した知識を使って身の回りの現象を捉えたりする活動を多く設定する。
「生命」を柱とする領域	○ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題では、正答率が63.3%であり、全国の平均より17.7ポイント高い。 ●レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く問題では、正答率が21.7%であり、全国平均より8.2ポイント低い。	・生物を扱う授業では、できるだけ本物に触れさせるとともに、ICTを活用したデジタル教材等で生きている教材だけでは分かりにくい部分が理解しやすくなるよう工夫していく。 ・ICT機器を活用して知的な情報を取り入れるとともに、定期的に校庭の植物の観察記録をさせることで成長の過程を押さえるようにする。
「地球」を柱とする領域	○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く問題では、正答率が85%であり、全国の平均より5.5ポイント高い。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、正答率が56.7%であり、全国の平均より0.8ポイント低い。	・実際の観察・実験が困難な単元は、模型やICT機器等を活用し、分かりやすい授業展開に努める。 ・学習内容と身近な自然現象を結び付けて考えられるようにするため、学習したことが生活の中で確認できる場面を紹介するなど、実生活で活用されている場面について話し合う活動を取り入れる。 ・気温や天気について図を用いて考える授業では、分析し解釈をする視点をはっきりさせて考察したりまとめさせたりする。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○各教科に対しての「将来、社会に出た時に役立つと思いますか」という質問への肯定的回答率は、国語で95.1%、算数で93.1%、理科で81.9%であり、全国の平均よりそれぞれ4.7ポイント、1.8ポイント、2.0ポイント高い。将来の自分に必要だと感じながら学習に取り組む様子が伺える。学習内容と生活のつながりを想起させたり、自分が学習内容を生かせる場面を想像させてきたことの効果が表れたと考える。取組を継続していきたい。

○「読書は好きですか」という質問への肯定的回答率は80.3%であり、全国の平均より10.6ポイント高い。学級文庫の貸出や巡回図書の利用、校内での読書に関するイベント等により、本を読む習慣が身についていると考えられる。継続して本に親しめる環境を整えていきたい。

○「自分にはよいところがあると思いますか」という質問への肯定的回答率は96.8%であり、全国の平均より9.9ポイント高い。夢いっぱいプロジェクトの取組により、目標を立て、達成のための努力の方法を検討し、達成した達成感を味わうという経験や、達成を教員や児童同士で認め合ってきた成果が表れていると考える。また、帰りの会等で、見つけた友達の頑張り等を称賛する活動により、自己肯定感が高められていると考えられる。取組を継続して行っていく。

●「算数の勉強は好きですか」という質問への肯定的回答率は54.1%であり、全国の平均より3.8ポイント低い。問題場面を日常生活に置き換える等の工夫により、興味や実感をもって問題に取り組めるように努める。また、「できた」、「わかった」、と感じられるよう、頑張りを認め励まししながら答えが出せるよう支援する。

●「将来の夢や目標を持っていますか」という質問への肯定的回答率は78.7%であり、全国の平均より4.4ポイント低い。夢プロジェクトの活動により、小さな目標達成をたくさん経験しているが、将来の自分の姿を具体的に考えるには至っていない状況が伺える。学級活動で行うキャリア教育を中心に、教員も社会で働く一つのモデルであることや、「宮っ子夢教室」にかかる出前授業を生かし、様々な人の姿に触れたり話を聞いたりする機会を設ける。

宇都宮市立清原中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く活動を取り入れながら自分の考えをもち、主体的に取り組む児童の育成	ICT機器を活用し、自分の考えや意見を表現する活動を取り入れている。また、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできるように、ペアやグループなど友達と話し合う活動を意図的に設けている。	「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか」の設問の肯定的回答割合は、78.7%であり、全国平均と同程度である。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の設問の肯定的回答割合は90.2%で、全国平均より5.3ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでましたか」の設問の肯定的回答割合は75.3%で、全国平均より4.8ポイント低い。	進んで問いを追究し、自らの学びを工夫する子の育成	・児童自身が学習のねらいや見通しをもち、各教科等の「見方・考え方」を働かせて取り組むことができるように、明確な課題の提示や発問を工夫する。 ・児童の問いを軸に授業が展開する単元計画を工夫し、児童自身が学びを振り返りながら、課題の解決ができるようにする。